

デザイン教育の先駆的試み - 国際建築ワークショップ -

正会員	阿	部	仁	史	君	
正会員	石	田	壽	一	君	
正会員	小	野	田	泰	明	君
正会員	本	江	正	茂	君	
正会員	堀	口		徹	君	
正会員	中	田	千	彦	君	
正会員	槻	橋		修	君	

近年、グローバリズム化が進む中で、人口減少や高齢化、都市の再生など、地域的であると同時に現代都市ならばどこでも抱えている共通の問題が発生している。これらの問題に対しては、ローカルな文脈を超え、国際的視点からプロジェクトを推進していくとともに学際的な視点をもったデザイナーの育成が急務となっている。

阿部仁史君らのメンバーは、このような状況の中で、新たな地域デザイン手法を構築するため、デザイン教育の国際化に向けたプログラム - 国際建築ワークショップ - を2002年に設立した。

この国際建築ワークショップは多層な教育プロセスで行われている。はじめにホスト国において、地域的ではあるがグローバルな問題を発見し課題の作成が行われる。この課題に基づき、参加大学自国での「国内課題」(ホーム)とホスト国での「国際ワークショップ」(アウェイ)の2段階ワークショップが行われる。自国で2か月にわたり、都市ビジョンの構築と建築を通じた解法の提案を行った上で、ホスト国でのワークショップにおいて多国籍のグループにより再度、提案を構築し直し、成果品を作り上げる。この成果品に対する講評会と専門家・有識者や地域の一般の人々を交えた公開シンポジウムを行い、社会・地域への発信と還元を行う。そして、最後にこの一連のワークショップ成果を1冊の本としてまとめ、活動内容をアーカイブしていく。また、ホスト国で行われる2週間のワークショップ期間は、ホスト国の学生宅にホームステイし、現地の生活文化や思想に直接触れあうことで、ワークショップをより多層的な経験の場としている。

毎年ホスト国を持ち回り制にすることより、運営を1つの大学に閉じ込めることなく複数の大学間で共有し、異なる国の教育システムを持つ同志による批評的検証を強化している。そしてこの共有化は、それぞれの大学をプラットフォームにしながらも独立した「個」の集合体として、開かれたネットワークWorld Architecture Workshop (WAW) という新しい教育組織へ発展している。

一連のワークショップは、国内あるいは校内に自閉した設計課題とは異なり、多様な思想的文化的背景、設計方法を学びつつ、英語による議論や作業、プレゼンテーションによる国際意識と、他国との関係の中で自らを相対化する場となり、学生の国際意識を飛躍的に向上をさせている。そして単に一過性のプログラムでなく、東北大学では修士デザイン

の教育のコアカリキュラムと位置づけるとともに、定常的な国際交流として大学部局間協定へ発展し、学生留学生の交換と、留学生数の増加にもつながっている。

日本とフランス2国で設立した国際建築ワークショップも今年度で7年目を迎え、参加大学も4大陸5カ国の地方都市に所在する建築系大学のネットワークに拡張するなど、建築教育の国際化に向けた先駆的な試みとして評価することができる。

よって、ここに日本建築学会教育賞（教育貢献）を贈るものである。